

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：26401
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2012～2015
 課題番号：24720128
 研究課題名(和文) 注釈の意義に関する理論的・実践的研究

研究課題名(英文) A Theoretical and Practical Study of Footnote

研究代表者

山口 善成 (Yamaguchi, Yoshinari)

高知県立大学・文化学部・准教授

研究者番号：60364139

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：注釈は学問の正統性を保証する技術的装置であると同時に、代替的な表現の場でもある。19世紀初頭アメリカの歴史記述において、注釈は史的客観性を担保するだけでなく、創造的な可能性を有する実践だった。また、注釈は近代における小説ジャンルの発展にも影響を与えていた。それは科学的客観性と文学的想像力が交差し、新しいスタイルのテキストを生み出す空間だった。

文学研究の方法として、創造的な注釈の実践は既存の解釈や作家像にかわる新しい視座を導入するうえで大きな可能性を有している。また、文学教育においても本文テキストを多くの観点から解釈し、補足し、その成果を一つにまとめる方法として注釈は有効である。

研究成果の概要(英文)：While footnoting is a technical practice of a scholarly profession which ensures the authenticity and legitimacy of an academic argument, it works as an alternative field of expression. In the early national American history writing, for example, footnotes both vouchsafed historical objectivity and accommodated the writer's creative voice. This footnote creativity had direct or indirect consequences on the rise of the novel. Scientific objectivity and literary imagination met in footnotes and a new style of writing was born in that marginal text.

As a method of literary studies, creative footnoting can introduce an alternative understanding of a literary text and its author. In literary education, moreover, the practice of footnoting is effective in providing a variety of readings, augmenting a literary text, and packaging the in-class activities in one end-product.

研究分野：米文学

キーワード：英米文学 文学一般 文学論 注釈

1. 研究開始当初の背景

「注釈」は、文学研究に携わるものであれば、誰もがその必要性を認識する大切な仕事であるにもかかわらず、これまで正当に評価されてこなかった。切れ味のよい理論や文化言説中心の文学研究と比べ、注釈作業は明らかに地味で時間がかかり、それゆえ率先して取り組もうとする研究者の数は減りつつある。論説的ないわゆる「論文」に対し、注釈は研究業績として認められにくいことも、その理由の一つだろう。

しかし、文学研究をとりまく現状はどうあれ、注釈が必要なテキストは確実に存在する。例えば、研究代表者(山口)が本研究課題を開始する以前から取り組んできた初期アメリカの歴史記述の分野では、書籍の電子化とウェブ上での公開により新たに利用可能となった数多くの地方史(植民期から19世紀半ばに出版されたもの)は未だほぼ生のまま放置されている状態で、注釈とそれによる文献相互の系統化が急務だった。さらに近年、山口が参加した若手研究者の勉強会においても注釈の必要性を説く声がしばしば聞かれた。注釈の重要性は見直す必要性は、日常的な研究活動において肌で感じられるようになっていた。

また、注釈という(サブ)テキストの性質について理論化する試みも始まっていた。注釈はただ単に語義を説明したり、文脈的背景を補足したりする補助的な役割のみにとどまらない。西洋歴史学における脚注の歴史を論じた Anthony Grafton は注釈が本文に客観性と公平性を付与する装置であるのと同時に、それ自体が表現手段となりうることを指摘している (*The Footnote: A Curious History* (1997))。さらに、中国古典文学研究において注釈は訓詁学として制度化され、むしろ研究の中心を占めるといえる。注釈の意義を問い直すことは、文学研究のディシプリンそのものを再考する機会になるという発想で本研究計画は始まった。

2. 研究の目的

本研究計画は、注釈の持つ意義を理論的かつ実践的に再考することで、文学研究の方法論を問い直し、注釈が持つ表現手段としての可能性を提示することを目的とする。具体的には4つの観点から注釈を分析、実践してゆくことになる。まずは注釈の歴史を概観し、これまで文学研究において注釈が果たしてきた役割を再確認する。これによって注釈の方法論の有効性を明確にしたうえで、次に対象テキストを選定し、実際に注釈を付してゆく。さらに、注釈は文学の創作そのものにも重要な想像力を与えてきたことを例証し、「注釈文学」の定義を一般化させたい。最後に、以上の3点すべての成果を踏まえ、文学教育における注釈の意義を実践的に再考する。

3. 研究の方法

注釈の意義について、年度毎に課題を設け、理論と実践を交互に織りまぜながら分析を進める。平成24年度は「注釈の歴史」と題し、注釈がこれまで文学研究において果たしてきた役割を理論化する。平成25年度は「注釈の実践」と題し、平成24年度に明らかになった注釈の方法論をもとに、注釈の実践を行う。平成26年度の課題は「注釈と創作」とし、文学創作の場に注釈的想像力が及ぼした影響を分析し、「注釈文学」のジャンルを一般理論化する。平成27年度は「注釈の教育的効果」と題し、注釈を文学の授業に取り入れ、文学教育における注釈の有効性を実践的に提言する。これらの研究課題は、従来通りの出版媒体に加え、インターネット上の専用サイトや分野を横断した研究者同士の研究会等を通じて随時成果を発表する。

4. 研究成果

(1) 歴史的・理論的なアプローチでの成果

伝記や歴史記述での注釈行為を主たる題材に、本来注釈が持っている方法論上の有効性を明らかにした。論文“The Biographer’s (Sub-)Voice: Life, Writings and Footnotes in Jared Sparks’s Documentary History” (『アメリカ文学評論』24号)および学会発表「伝記作家の声: Jared Sparks の歴史記述における史的客観性と脚注的想像力」(中・四国アメリカ文学会第44回年次大会)では、Sparks の『ジョージ・ワシントン伝』において、史的客観性を担保するはずの脚注が本文とは別種の表現の場になっていたことを指摘した。これにより注釈という周縁テキストの持つ創造的な可能性を論ずることができた。

同僚の高西成介・高知県立大学文化学部准教授と共同で行った学会発表“The Biographer’s Double Story: Life Writing, Footnote and the Novel” (International Conference for Academic Disciplines, 2014)は、前述の成果をもとにさらに注釈の表現としての可能性を論じた。中国古典文学と英米文学の伝記テキストを比較対照しながら取り上げ、注釈が近代的な「小説」の発展に与えた影響を論じた。

また、注釈という場は過去の史料や先行する研究との対話の場でもある。この発想から、史料の収集、分類、保存に関わる試みについても考察した。史料は現物のまま文書庫に保管するだけでなく、注釈が付され、複製印刷され、共有されることによって時代を超えて生き延びる。この点について、18世紀末アメリカの歴史協会発足を題材に論じたのが、論文“Collect, Preserve and Communicate”: Jeremy Belknap’s Republic of Letters and the Problems of Early American History Writing” (*The International Journal of*

Books, Publishing and Libraries 14) である。また、後述する新プロジェクトの研究会でも、「燃やされた手紙：文書の保存をめぐる考察」(注釈・翻訳研究会、2015年)と題し、Edgar Allan Poeの“The Purloined Letter”を文書保存の物語として論じている。

学会発表“Panorama and Parataxis in Francis Parkman’s Historical Writings”(The Return of the Text, 2013)は、Francis Parkmanの詳細な注釈行為と歴史記述の文体との関係についての論考である。Parkman論については、総仕上げとして“Geological Deep Time in Francis Parkman’s History Writing”(Interdisciplinary Nineteenth Century Studies Conference, 2016)と題する発表も行った。

歴史と注釈の関係についての考察は、初期アメリカの歴史記述に関する論考をまとめた著書の一部として刊行を予定している。

(2) 実践的なアプローチでの成果

創造的な注釈実践の試みとして、Francis Parkmanの園芸学の仕事を挙げた。もちろんParkmanは第一に歴史家であるが、彼のもう一つの側面を注釈的に補足することで、歴史記述での業績に新しい視点を導入することを目的とした。長期的なプロジェクトとしては、最終的にParkmanの伝記執筆を目指しているが、本研究計画ではその一部を「荒野とバラ：Francis Parkmanの森の歴史における園芸学の作用」(日本アメリカ文学会第54回全国大会)と題して発表した。

文学教育における注釈の実践は、テキストにMaxine Hong Kingston, *The Woman Warrior*を選んだ。作品解釈に加え、20世紀半ばの中華系移民コミュニティについて文化的背景を中心に注釈を施した。上述の理論面での成果をもとに、本文を創造的に補う注釈のあり方を模索した。注釈そのものを一般に公表するにはいたらなかったが、クラス全体の成果を一つのプロダクトにまとめることができる点で、注釈の有効性を再確認した。なお、2016年度夏に成果の一部を研究会報告することになっている。

(3) 今後の展開にかかわる成果

前述した高西成介・高知県立大学文化学部准教授との共同研究をきっかけに、本研究課題をさらに発展させることができた。バルセロナでの共同発表に先立ち、2014年4月中・四国地区の中国文学、日本文学、英米文学の研究者の注釈研究会を行った。ここでの意見交換は、「注釈」を「翻訳」と並べて論ずる視点の導入に結びつき、最終的には新しい研究プロジェクト、「周縁テキスト(注釈・翻訳)の自立性をめぐる歴史的・理論的研究」(基盤研究C)へと発展した。

〔雑誌論文〕(計2件)

Yoshinari Yamaguchi, “Collect, Preserve and Communicate: Jeremy Belknap’s Republic of Letters and the Problems of Early American History Writing,” *The International Journal of Books, Publishing and Libraries* 14 (2016): 1-12. 査読有

Yoshinari Yamaguchi, “The Biographer’s (Sub-)Voice: Life, Writings and Footnotes in Jared Sparks’s Documentary History,” 『アメリカ文学評論』24 (2014): 61-74. 査読無

〔学会発表〕(計10件)

Yoshinari Yamaguchi, “Geological Deep Time in Francis Parkman’s History Writing,” Interdisciplinary Nineteenth Century Studies Conference, March 10-13, 2016 (Asheville, North Carolina, USA).

山口善成「燃やされた手紙：文書の保存をめぐる考察」注釈・翻訳研究会、2015年11月28日(高知県立大学)

山口善成「荒野とバラ：Francis Parkmanの森の歴史における園芸学の作用」日本アメリカ文学会第54回全国大会、2015年10月10日-11日(京都大学)

山口善成「『何か』の物語：James Baldwin, *Another Country*の捉えどころのなさ」日本アメリカ文学会東北支部例会、2015年9月19日(東北大学)

山口善成「伝記作家の声：Jared Sparksの歴史記述における史的客観性と脚注的想像力」中・四国アメリカ文学会第44回年次大会、2015年6月13日-14日(香川大学)

Yoshinari Yamaguchi, “Collect, Preserve and Communicate: Jeremy Belknap’s Republic of Letters Reconsidered,” 12th International Conference on Books, Publishing & Libraries, November 8-9, 2014 (Simmons College, Boston, USA)

山口善成「歴史と変化：初期アメリカ歴史記述における時の概念」筑波大学アメリカ文学会例会、2014年10月19日(筑波大学)

Yoshinari Yamaguchi and Seisuke

Takanishi, "The Biographer's Double Story: Life Writing, Footnote and the Novel," International Conference for Academic Disciplines, June 16-19, 2014 (Universitat Autònoma de Barcelona, Barcelona, Spain)

Yoshinari Yamaguchi, "Panorama and Parataxis in Francis Parkman's Historical Writings," The Return of the Text: A Conference on the Cultural Value of Close Reading, September 26-28, 2013 (Syracuse, New York, USA)

Yoshinari Yamaguchi, "Geological Deep Time and Emerson's Idea of History," Conversazioni in Italia: Emerson, Hawthorne, and Poe, June 8-10, 2012 (Florence, Italy)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山口 善成 (YAMAGUCHI, Yoshinari)

高知県立大学・文化学部・准教授

研究者番号：60364139

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし